2014年11月吉日

各　位

愛知大学東亜同文書院大学記念センター
センター長　　三好　章
（公印省略）

愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催　国際シンポジウム
「書院生、アジアを行く！:東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして」
のご案内

拝啓

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

このたび、愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催による国際シンポジウム「書院生、アジアを行く！:東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして」を開催いたします。ご多忙のこととは存じますが、同封いたしました印刷物をご高覧いただきたくご案内申し上げます。

今回の国際シンポジウムは、本学のルーツといえる東亜同文書院に関する内容で、書院生卒業前の一大イベント「大旅行調査」について開催いたします。

参加にあたり、申し込みは不要、無料でご参加いただけます。また、ご関心のある発表だけでもご参加いただけますので、お足をお運びいただきたくお願い申し上げます。

末筆ながら今後益々のご発展をお祈り申し上げます。

敬具

記

◆ **国際シンポジウム**

「書院生、アジアを行く！:東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして」

開催日時：　11月30日（日）13：00～18：30
会　　場：　愛知大学車道校舎K1001教室
（名古屋市区東区筒井二丁目10-31）
＜聴講無料／申込不要＞

以上

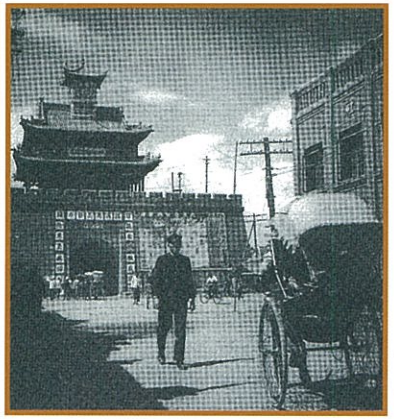
【連絡先】
愛知大学東亜同文書院大学記念センター
〒441-8522　愛知県豊橋市町畑町1-1
電話：(0532)47-4139 / FAX：(0532)47-4196
担当：森

愛知大学 AICHI UNIVERSITY

主催　愛知大学東亜同文書院大学記念センター／文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

2014年度　シンポジウム
「書院生、アジアを行く！：東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして」

と き：11月30日（日）／ところ：愛知大学車道校舎K1001教室



東亜同文書院（のちに大学）は、1901（明治34）年東亜同文会によって中国上海に創立。国際社会に貢献する人材養成を目的に、戦前海外に設けられた日本の高等教育機関としては最も古い歴史をもち、約5,000名を輩出しました。

1907年、数名の学生で編成した班で数ヵ月間調査する、書院生卒業前の一大イベント「大旅行調査」が5期生から開始されました。20世紀前半の中国大陸やその周辺を記録した「大旅行調査」のコース総数は30有余年で700本近くに及びます。その調査結果は、調査報告書や大旅行誌などにまとめられており、近代中国を知る貴重な史料です。

このたびは「書院生、アジアを行く！：東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして」と題して、大旅行調査を様々な方向から検討するシンポジウムを開催します。東亜同文書院が展開した大旅行調査について、より広い文脈から新しい知見がもたらされ、今後の調査・研究に資することを祈念するものです。

時間	報告内容	報告者
13:00-13:10	学長挨拶　（佐藤　元彦　愛知大学学長）	
13:10-13:15	センター長挨拶（三好　章　愛知大学現代中国学部教授）	
13:15-13:20	趣旨説明	加納　寛　（愛知大学国際コミュニケーション学部教授）
13:20-14:00	基調講演：『東亜同文書院大旅行誌』から見た満洲の日本人	荒武　達朗（徳島大学総合科学部准教授）
14:00-14:30	内蒙古自治区赤峰市街地の都市構造－1920年代と現在の比較－	高木　秀和（愛知大学大学院文学研究科大学院生）
14:45-15:15	清末民初の雲南事情と滇越鉄道について：東亜同文書院第八期生（1908年）米内山庸夫に着目して	増田　喜代三（愛知大学大学院中国研究科大学院生）
15:15-15:45	書院生、東南アジアを行く!!：東南アジアにおける大旅行調査ルートの分析	加納　寛　（愛知大学国際コミュニケーション学部教授）
15:45-16:15	『大旅行誌』の思い出に記された香港	塩山　正純（愛知大学国際コミュニケーション学部教授）
16:30-17:00	大旅行調査と台湾：その位置づけをめぐって	岩田　晋典（愛知大学国際コミュニケーション学部准教授）
17:00-17:30	『大旅行誌』の食に関する記載にみる書院生の心情	須川　妙子（愛知大学短期大学部教授）
17:30-17:45	総合コメント	藤田　佳久（愛知大学名誉教授）
17:45-18:30	総合討論（司会：松岡　正子　愛知大学現代中国学部教授）	

予約不要・入場無料

『大旅行誌』

【お問い合わせ】愛知大学東亜同文書院大学記念センター　Tel 0532-47-4139 Fax 0532-47-4196
E-mail：　toa@ml.aichi-u.ac.jp　ホームページアドレス　http://www.aichi-u.ac.jp/orc/index.html

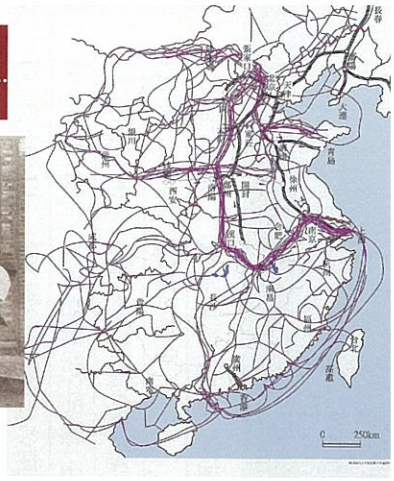
東亜同文書院大学

愛知大学の前身ともいえる東亜同文書院大学をはじめ、中国の革命家・孫文に関する資料を展示

荒尾 精(1859～1896年)
1890年、東亜同文書院の前身にあたる日清貿易研究所を上海に開設。

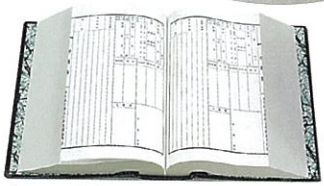
近衛篤麿(1863～1904年)
近衛文麿の実父。貴族院議長、東亜同文会会長。東亜同文書院設立の構想を打ち出し、当初南京に開校した。

根津 一(1860～1927年)
日清貿易研究所の運営に携わり、近衛篤麿に協力して東亜同文書院設立に尽力。院長も務めた。



大旅行
東亜同文書院では卒業年度になると3～5人のグループごとに中国大陸各地へ3～5ヶ月におよぶ徒歩中心の調査旅行が行われた。(現在の大学2、3年生)
卒業論文となった「調査報告書」(写真左)、日記体の記録「大旅行誌」は当時の中国を知る貴重な資料となっている。

孫文と山田純三郎
山田純三郎は、兄の良政亡き後、東亜同文書院教員を経て、孫文の側近として活躍。



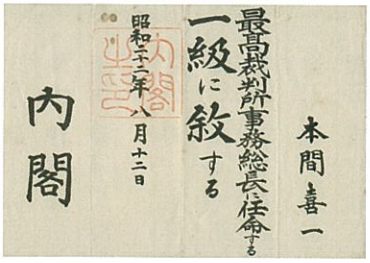
東亜同文書院大学の学籍簿・成績簿
敗戦・閉校にともない、本間らの苦心により接収を免れ、何よりも優先して上海から教職員、学生が持ち帰ったもの。

愛知大学

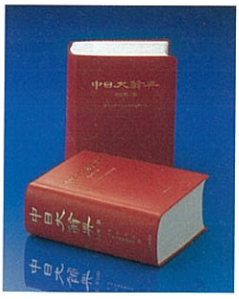
創成期から現在の愛知大学に至るまでに蓄積されてきた、多くの史資料の中でも代表的なものを展示

本間喜一
(1891～1987年)
東亜同文書院大学最後の学長(第3代／1944～1945年)。
戦後は愛知大学第2代・第4代学長。

愛知大学設立認可書
東亜同文書院大学最後の学長であった本間喜一が1946(昭和21)年3月に帰国し、同年8月1日申請、同年11月15日に認可されるというスピードであった。これには当時文部大臣であった田中耕太郎(第一高等学校・東京帝国大学時代の同級生で親友)の存在が欠かせなかった。



最高裁判所事務総長辞令
戦後の新憲法施行に伴い最高裁判所が発足、そして三渕忠彦最高裁判所長官の指名により初代最高裁判所事務総長に就任した。



中日大辞典
日中国交正常化前に東亜同文書院作成の華日辞典原稿カード14万枚が中国から愛知大学に返還、1968年日本で初めて刊行された。

平松礼二「日本の新しい朝の光」(2003年)
平松は1964年愛知大学を卒業し、2000年から10年間『文藝春秋』の表紙を担当した日本画家。

東松照明
「皮肉な誕生」(1951年)
東松は1954年愛知大学を卒業し、晩年は沖縄を拠点にした写真家。
本作品は在学中に撮影された。

創成期(1946年)豊橋校舎 | 愛知大学記念館(旧本館)〈文化庁登録有形文化財〉 | 愛知大学公館 | 旧名古屋校舎(三好) | 車道校舎 | 名古屋校舎〈2012年4月開校〉

愛知大学
AICHI UNIVERSITY

愛知大学東亜同文書院大学記念センター

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 TEL0532-47-4139 http://www.aichi-u.ac.jp/orc/index.html
《交通アクセス》豊橋駅より豊橋鉄道渥美線で5分愛知大学前駅下車